生涯学習情報誌

フォンズ

第 38 号
2008年 2 月10日
発　行
常陸太田市フォンズ・ネットワーク
事務局　常陸太田市生涯学習センター内
〒313-0061
茨城県常陸太田市中城町3280番地
TEL 0294(72)8888
FAX 0294(72)8880

写真提供　ケイ美容室（小菅町）

水の思い出 ㊲

里美地区は国道349沿いに里川が流れ、西側から山が迫り、僅(わず)かの平地、支流の平地に田畑があり、人家がある。85パーセントが山林でありほとんどが杉・桧の人工林である。水は澄み、カジカ、ヤマベ、ドンガンボ、サラカジカ、ウナギ、スナドジョウが泳いでいた。大雨が降ればモズクガニもとれた。そんな中での思い出の多くは近くの水力発電用の取水堰である。堰堤やゲートを支える高い石積みがあり地元では「エンテ」と呼んでいた。釣り、水遊び、夏休みは泳ぎの子どもたちで賑わった。ウナギ釣りの名人がいた。石積みの穴やコンクリートの擁壁の透き間に潜むウナギをカジカの生餌に針をつけ穴に刺し込むとウナギがくいつく。根気よくウナギを穴から引っぱり出す。太くて大きなウナギが姿を現す。毎日の様に釣っているのだが、ほとんど空振りなしで釣れていた。「アテツリ」と呼んでいた。

大雨が降ると里川に架かる橋が流されて学校に行けなくなる。橋と言っても川に杭を打ちその上に20～30センチの杉板を12枚並べ連ねただけの通称一本橋である。流れの勢いが弱まる迄は橋の復旧ができないので、仕方なく「エンテ」を渡って学校に行った。普段は水が流れていない堰堤も大雨の時は別である。子供でも渡れそうな水かさになるのを待ってズボンを脱ぎ、姉たちと横一列に並び、手を継ぎ渡ったが本当に怖かった。良く流されなかったと、不思議なくらいだった。

中野　林平（小菅町）

フォンズとは、ラテン語で泉の意味です。とぎれることなく新鮮な情報がお届けできるようにと名付けられました。

2 こんにちは フォンズ

橋～地域と地域をつなぐ

川や谷に架けられ、両岸をつなぐ大きな橋、田んぼに出かける時に通る小川の木の橋。日々当たり前のように通っている橋は暮らしに欠かせません。里川に沿って素敵な橋の風景と、物語をみつけてきました。そして失われつつある伝承や歴史を記録する人、地域の風土を今に伝える巨木など、橋のエッセンスともいうべき人や樹木をご紹介します。

（五十嵐　弘、後藤　百合子）

■ 旧三つ目橋

■ 三つ目橋

現在の三つ目橋の上流に残る旧三つ目橋。形を残しながらも、橋としての役目は終えたのかもしれない。でも動物たちの営みをつなげる役目は残しているのかも。

■ 十ヶ上橋

里美旧道下の天竜川と里川の合流地点。里川にかかる木橋は生活道路であったようだが、今はひっそりとしている。せせらぎを耳にし旧道を見上げると不思議な想いにかられるのは、いずれの橋も時の流れ・移り変わりを見つめてきたからだろうか。

■ 笹原橋

アーチを描いた木橋。構造的にアーチ作用があるのかは不明だが、アーチがこの橋の美しさを引き立てていることは間違いない。笹原橋を眺めていると、美しい景色を造ることも橋の大事な役目だと思う。

■ 大平橋
（正式な名称は不明です）

この川はクリストアンブレラ展のころから絶好の撮影ポイント、近くで美容室を営む鈴木さんは、季節の花の種をまき橋の景観に色を添えてきた。昨年の大水で流された板の一部が川岸に放置されたまま、かけ直される日を待っている。

■ 吊り橋

表紙の「水の思い出」に登場する「エンテ」そばの橋です。

■ 大菅橋1号

赤い鉄製の頑丈な橋。台風で大水が出ると橋の上までくる事もあったとか。川をはさんで人が行き交う所だったのだろうが、近くに車の通れる橋ができたためか人のみが渡れる幅でかけられている。澄んだ川面を魚が泳いでる様は何とも嬉しい。

■ 里川発電所の吊り橋

周りの木々が吊り橋を包み、季節の彩りを伝えてくれているかのようだ。里川にこんな橋もあったのか…と驚いたが、発電施設へ出向く人たちを支える道として、役割を担ってきたのだろう。

ひととひとをつなぐ
記憶を橋渡しする人～中野林平さん

中野林平さん

中野さんの家系は、たどってゆくと慶長の時代になるという、歴史のある家。手入れの行き届いた長屋門の前では里美のかかし祭りに出品された七福神たちが出迎えてくれます。

中野宅長屋門

また、中野さんの家の歴史を象徴するように、部屋の端から端までずっと渡っている大きな神棚が、訪れる人を迎えます。

神　棚

■話を聞くことは身のこやし

由緒ある家の生まれという理由からだけではなく、学生時代から歴史には興味があり、人の話を聞くことも大好きだったという中野さん。その豊富な知識の源は「師であり、大親友でもあった故・佐川常次郎さん」の影響が大きいそうです。佐川さんは県内の伝承を調査していた方で、その方と県北地域をくまなく訪ね歩いた経験から「話を聞くことは身のこやし」であるとおっしゃいます。

■無駄話も無駄ではない

土地々々の古老から話を聞くには、お茶飲み話・雑談までもゆっくり・じっくり、一つも聞き逃さずじっと耳を澄ませて聞き入ること。そうやって中野さんの中に蓄積されてきた記憶が、まったく別のところで何十年も昔に聞いた話とひょんなところでつながっているとわかることがあるそうです。ある一点のつながりから様々な伝承のなぞがほどけるように理解されることもあり、その驚きは大きな喜びを伴っているといいます。

■千客万来です

多くの人はある年齢になると自分の来し方を考え、自分のルーツをたどる魅力にひかれるようです。そのような人たちが大勢中野さんを頼って里美を訪れます。「時間は作ればいいのです。どんなに忙しくても千客万来でお迎えしますよ」と中野さん。

来客は思いがけない情報を中野さんのもとへ届けてくれる人でもあります。人との交流の中に新たな発見があるかも知れず、探し求め、調べ歩き確認できた時、「人のつながりの不思議を感じる」そうです。

■記録に残し伝える

言い伝えや村のならわしなどを、伝えてくれる人が少なくなりました。記憶は人とともにある日突然失われてしまいます。「記憶を記録にして残すことが大事ですねぇ」「昔の人は本当によく日記や記録を残していて感心します」。丹念に村の記録を冊子にまとめた「さとみ風土記」発行の活動もそのような思いから続けてきました。貴重な記録の綴りをあなたも手にして見ませんか。

里美地区でも珍しい
中野宅の正月飾り

さとみ風土記～里美を知る会発行

「さとみ風土記」は「自分の言葉を文字にしよう」と平成5年から年に1号ずつ発行されてきました。時には会員の詩や短歌の寄稿も掲載され、里美の文芸誌の趣も兼ね備えていますが、主には中野さんをはじめとする会員20数名の地道な調査記録がつづられています。さとみ風土記は図書館で閲覧することができます。

問合せ先　事務局
大金博紀さん　82-3186

つぎつぎと豊富な知識に裏づけされたお話を聞かせていただき、中野さんとの時間はあっという間に過ぎてしまいました。「楽しさ」とともに脳の中にとどめられた記憶にはその感じた楽しさに比例して「伝える」力が宿るのかもしれません。楽しさを分かち合いたいという思いが伝える力となり聞き覚えた話を新たな話し相手へと伝えてゆく。伝承・民話などはこのようにして人の魅力とともに語り継がれてきたのではないでしょうか。

（塩原慶子）

中野さんの案内で樹年齢約300年～600年経過した里美地区天然記念物の樹を見て来ました。樹は、昔を語る自然の繋がりとも言えます。ロマンもあり、紹介されないと見過ごしてしまう珍しい木とも遭遇しました。（高橋靖浩）

菊池家のもみじ

紅葉の代表としてカエデの仲間たちはよく知られているが、その中でも菊池家の**もみじ**は秋に鮮やかな色に染まり、わらぶき屋根のむこうに美しく立ってそびえている。また、同家で生まれて初めてピンポン玉の大きさの黄色いカラタチの実を手にしました。これがあの歌に出てくる実だとしげしげとながめた。

カラタチの木

泉福寺のシダレザクラ

シダレザクラのイメージからは傘のような樹形を思い浮かべるが、このサクラは途中から二股になっていて、手を加えた盆栽のように、どこから見ても樹形が素晴らしい。また七反のシダレザクラ同様、枝先から主幹にかけ空洞ができてしまったことから、平成8年に樹勢回復（外科治療）を行っている。

猿喰（さるくい）のケヤキ

このケヤキは非常に樹形が良く、樹勢もおうせいである。それは人里から離れ、生育環境が良かったからであると思われる。大きく伸ばした枝下に立つと心が洗われる思いがし、まさに木霊を感じさせる巨樹である。また、根元より若干上にモミジが同居しており、春秋には見事な色彩りの調和を見せてくれる。また大きな石を根全体で抱きこんでおり、樹の生命力の強さ、樹霊を感じさせられた。

七反（しちたん）のシダレザクラ

このシダレザクラは茨城県桜見立て番付で県北横綱として知られている。

高台にあるため、日当り、水はけ、風通しが良く、平地と比較し良好の場所であったことから、このように素晴らしいシダレザクラに成長したそうである。

昭和の半ば頃までは、樹勢、樹形共非常に素晴らしいものであった。火災や強風、春の大雪等により枝が折れ、主幹にも大きな空洞ができ、枯枝が目立つようになり、平成2年山野忠彦氏の樹勢回復作業により今では順調に樹勢が回復している。春には見事な花を咲かせて、訪れる人を楽しませている。ちなみに治療方法は木の腐食した所に数十トンもの黒土を入れ外表面をセメンテング補修したと中野氏談。なお、この木のDNAを継ぐ子孫が周辺に数本植えられていた。私としてはチョット安心…

高宮神社のカシ

大菅鉱泉山手方向に高宮神社があり、その境内にこのカシの木がある。非常に枝の伸びがよく、今にも地面につきそうである。高宮神社は祭神「日本武尊」であるが、延暦21年（802年）坂上田村麻呂が東征の途次立ち寄り、このカシの木の元に祠（ほこら）を建て祭ったと伝えられている…言いつたえと樹木を共に大切に継続伝承し、守ってきた人たちに感謝。

ムクロジの樹

細田の旧道を走って行くと右側にムクロジの木がありその種子を手に乗せしみじみと見入りました。これは昔から羽子板のはねに使われている。まわりの茶色のところは、昔は石鹸（せっけん）の代わりに使われることがあるとのこと。水でぬらして、こすってみてください。なるほど…!!!

星～学校と地域をつなぐ

★★★★★★★ 機初小学校「親子・星の観察会」と金砂郷天文同好会 ★★★★★★★

機初小学校の課外活動「親子・星の観察会ー夏の星座や天体の秘密を知る」を取材してきました。理科教育に力を入れている機初小学校では、「科学大好き機初っ子育成プラン」を掲げ色々な自然体験活動を行っています。「親子・星の観察会」は森校長先生が金砂郷天文同好会へ協力を依頼して、平成１７年からはじまった課外活動です。

天候の関係でなんども延び延びになっていましたが、当日、事務局の石井さんから「今晩決行」との連絡をいただき喜んで行って来ました。機初小学校に到着すると、すでに天体望遠鏡を設置している最中でした。（写真１）

①

小生、小学生の頃、母親に天体望遠鏡をせがんで「弘は物を大事にしないから絶対に買ってあげない！」と言われた思い出があり、天体望遠鏡自体に興味津々です。最初の質問が「この望遠鏡はいくらくらいするのですか？」（いきなり下世話な質問）。石井さん、ニコリと微笑んで「あっちが軽四輪１台」「これが３ナンバーの乗用車１台です」とのこと。おもわず、３歩後ろに下がる私でした。

設置を見守りながら、近くにいた先生と会話をしていると、7・8年前に手作りで天体望遠鏡を作り、今日はそれを持ってきているとのこと。お願いして、その望遠鏡で月を観せて頂きました。（写真２）

②

自動車が買える価格の天体望遠鏡には及ばないものの、月のクレーターや地表の質感まで感じられるほどハッキリと見えました。（先生、ありがとうございました。）思わず「わー、すごーい」（今日は望遠鏡を覗いたあとはこの言葉だけ。ボキャブラリーの少なさを実感。）やがて、子どもたちと保護者の皆さんが笑顔で集まりはじめ、なんと総勢100人以上。皆さんも待ちに待った天体観測の日だったのですね。校長先生と同好会の皆さん、講師の鈴木正人先生の挨拶と注意事項が終わって、いよいよ天体観測会（天体観測をやっている方々は観望会と言っているそうです）の開始です。

３基の天体望遠鏡のうち２基は月に照準を合わせて、残りの１基は木星に照準を合わせてありました。大勢の児童と保護者の歓声が途切れること無く、やがて天体観測会は終了の時を迎えました。（写真３）

月のクレーターと表面の質感まで感じられる像、図鑑等でしか見たことがなかった木星の縞々模様と４個の衛星。石井さんからの説明で、現在観ている木星が約20分前の木星であること、太陽は約７分前の太陽であること、今日は観ることができなかった土星の輪まで観ることが可能であることを知ったことなど、参加した児童たちと同じ興奮を味わえた一時でした。

金砂郷天文同好会は、現会長の根本良勝会長が太田一高在学時代に結成した地学部のＯＢが、昭和54年に集まって作った常陸太田天文同好会を母体にして発足した会で、現在会員数12名です。最近は、市内の小学校６校の天体観測会のお手伝い各々年２回（夏の星座と冬の星座）が主な活動です。過去には西山研修所で、親子でキットの天体望遠鏡を組み立てて、その望遠鏡を使用しての天体観測会等をおこなってきました。最後に、石井さんにこの活動の楽しみをうかがいました。「色々なことを知る喜びや、天体のロマンを感じることもありますが、やっぱり子どもたちのワァーという歓声が一番の喜びです。」　　（五十嵐　弘）

③

百姓母ちゃんのたべもの日誌⑦

ちょっと農天気！

『辣白菜（ラウパアサイ）』

冬になるといろいろな大根、カブ、白菜、青菜などがとれ始め、漬け物仕事が始まる。私の漬け物は、本で見たものより近所の友人に教わったもののほうが多く、毎年いろいろ作ってみる。近隣の百姓仲間で集まるとき、この時期の話題はもっぱら漬け物のことになり、こうした、ああした、失敗したなどと言いながらお互いの漬け物を味見するのも楽しい。

辣白菜はSさんから教わった白菜の中国風の漬け物だ。スパイスのきいたアクセントのある味が美味しい、作り方を教わった。白菜の白い部分だけ使い、タテ長に拍子切りする。塩もみして2～3時間おく。ごま油で唐辛子を炒め、火を止めて酢・さとう・塩を加えてまた火にかけ、ネギ・ショウガのみじん切りを加える。熱々のこの汁を白菜にじゃっとかけるだけ。すぐにでもいただける即席漬けだ。

Sさん夫婦は長年海外で農村開発の仕事をした後、日本に帰ってきて百姓を始めた。彼女はアフリカなど自然環境が厳しい場所を見てきたので、日本のような恵まれた自然がある所で、おいしい作物を作れることが本当に幸せだという。そしてパワフルな彼女の作る料理は、和風でありながら、どこか異国の香りがする。

私は、農村に暮らし始めてから、「よくこんな山村で百姓してるねえ」といわれるが、その一番の理由はやはり食べ物がおいしいからだと思う。ごはんに、採れたての旬の野菜で作った漬け物があればそれだけでおいしい。おいしい素材に囲まれているから料理をする気にもなり、食べ物のおいしさを表現するのが楽しい。作物を作り、食べ物を作り、自給する農業は、私のような食いしん坊にはもってこい。農作業は時につらく厳しいものだけれど、何より食べることが大好きならば、続けてゆけるかなと思う。食べることは生きること。そして食べものを作るのが農業なのだから。

（木の里農園　布施（ふせ）　美木（みき））

子育て奮闘記

踊るママパラダイス㊳

子どもの初めての受験に翻弄（ほんろう）されています。

こんなに気持ち的に苦しいとは思いませんでした。自分の受験の時のことは、覚えていないのかと思うほど、苦しかった記憶がないのですが、子どものことは辛いものです。叱咤激励（しったげきれい）の毎日。その割りにあわててない様に見える我が家のスミレさん。「なんでぇ？この子は平気な顔をしているの？」

私もそうだったのかな、そりゃ、親もやきもきしただろうな。失ってから分かる親心をありがたがっている毎日です。

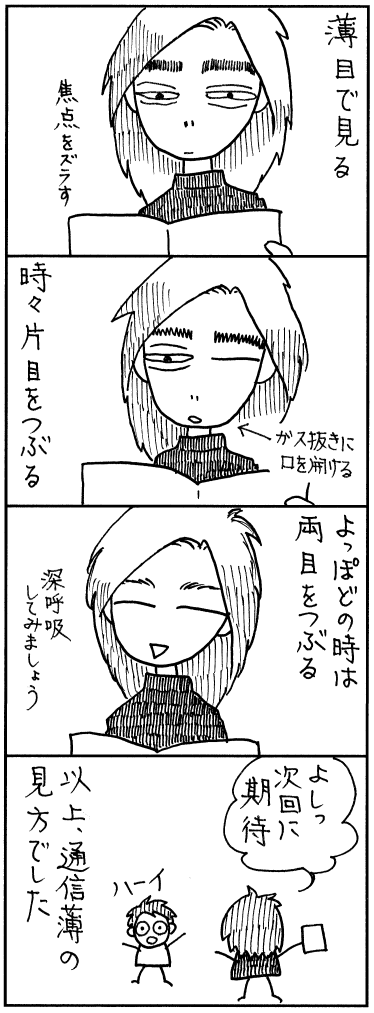
私は子どもに自分の力で入れる学校に進んでもらえれば、それでいいと思っています。将来の夢があるならそれに向かって努力してくれればいいと思います。ユースケのコミュニケーションの教室で、先生がおっしゃった言葉があります。「どこの学校に行ったかではなく、どう生きるかが大切。」それは、どんな子どもにも当てはまる言葉です。

お正月、遊びに行った実家。弟が我が子の成績はこんなものではないはずだ、頑張ればもっと上にいけると熱弁をふるっているのを見て、甥っ子にさっきの言葉をかけると嬉しそうでした。「『頑張ればっ』て、私とあんたが、よくお父さんに言われた言葉じゃない。通信簿の日は、家に帰りたくなかったことを思いだすでしょう？」

３年間の中学校生活はあっという間でした。スミレと一緒に一喜一憂できて楽しかったです。大切な思い出を残してくれて本当にありがとう。

―― わいわいネット　織田　裕子 ――

4コマ目は毎回言ってます



リレーエッセイ「思い出の本」 ～37～

（大里町　大津　理恵）

長男が、まだ私のお腹の中にいる時、読み聞かせしていた絵本が、エリック・カールの「はらぺこあおむし」。色や絵（コラージュ）が鮮やかで、印象的でした。とても簡単なしかけ絵本で、あおむしが食べる食べ物が1つずつ増えて、丸い穴が1つずつあいていくのです。

長男が生まれてからは、かわいい小さな指を手にとり、「むしゃむしゃ」「パクパク」と言葉かけし、あおむしの食べたところの穴を1つずつ指を入れて遊びながら、読み聞かせしました。よちよち歩きの頃は、私のひざの上にちょこんと座り、絵本を開きました。「はっぱの上にちっちゃなたまご。お月さまがそらから見ていました。」ひとりでに話し出します。最後のページは、めくる瞬間に、「あっ、ちょうちょ！あおむしがきれいなちょうちょになりました」と絵本をちょうが飛ぶようにパタパタさせて、お・し・まーいと言って読み聞かせがおわりました。いつの間にか覚えてしまったのですね。はじめての子だったこともあり、とても幸せなひとときでした。

その長男も早いもので、春には中学生になってしまいます。「はらぺこあおむし」が大好きだった子も、今ではくいしんぼうの「はらぺこサッカーぼうず」です。いつもおなかはぺっこぺこです。そんな長男の夢は、サッカー選手のスパイクを作るデザイナーです。「はらぺこあおむし」のように、いつかきれいなちょうになれるといいですね。親バカの母は、とても楽しみにしています。頑張れ！我が家の「はらぺこあおむし」！

（次回は　大里町　藤間　早苗さん）

ほっとひといき　湯草のカヤ（イチイ科）市指定天然記念物

水府地区の北に位置する上高倉町湯草にカヤの木がある。ここは元高倉院（こうそういん）寺跡で上高倉分教場になっていたが昭和40年に本校の高倉小学校に統合された。

このカヤの木は平成2年に水府村の指定になり、平成16年に常陸太田市に合併し市の指定になった。樹囲5.0m　樹高12m　樹齢400年

平成8年発行「茨城の銘木・巨樹」参照。

カヤは常緑高木。宮城県以南に生育。高さ25m直径1m以上に達する。葉は皮質でつやがあり葉の先はとがる。雌雄異株。種子はかつては油を採り、食用や灯火用に用いられた。材は水湿に耐えるので、桶材・土木用材としたり、質が緻密なので碁盤や将棋盤を作る。

カヤの語源は古名「カへ」の転化、また蚊やり（蚊を追い払う）に用いたからだという俗説もある。

（桐原　弘）

ウィークエンドシネマランド

Copyright:HARRY POTTER characters, names and related indicia are trademarks of and (C) Warner Bros. Entertainment Inc. Harry Potter Publishing Rights (C) J.K.R. (C) 2007 Warner Bros. Entertainment Inc. All rights reserved.

今年度最後のウィークエンドシネマランドは豪華2本立て！ハリーポッターの最新作を字幕・吹替両方でご覧ください。また、織田裕二主演のリメイク版で話題となった「椿三十郎」は、御本家・三船敏郎主演のオリジナル版を上映いたします。（フィルム上映のため音声や映像に乱れがあります。ご容赦ください）懐かしの白黒映画にひたるもよし、最新の映像技術に驚くもよし。春休み前のうきうきシネマをどうぞお楽しみに！

3月15日（土）

①ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団（吹替）　9:30～
②ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団（字幕）13:30～
③椿三十郎　18:30～

◆整理券配布　2月16日（土）午前9時から
◆会　　場　常陸太田市生涯学習センター「ふれあいホール」
◆問合せ先　生涯学習センター事業係　TEL 0294-72-8888

上役の不正を暴こうと立ち上がった9人の若侍、正義感はあるが腕や権謀をめぐらせることについては心もとない者ばかり…？ひょんなことから助太刀することになった凄腕の浪人、三船扮する三十郎は前作の「用心棒」からのキャラクター。この作品のほうが人間味も増し、ユーモアも強調されています。仲代達矢演ずる敵の用心棒との壮絶な一騎打ちは映画史に残る圧巻。

フォンズのバックナンバーはホームページでご覧になれます。
常陸太田市（http://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/）→「生涯学習センター」→「情報誌」です。